

水稲育苗時の高温対策

近年、春の育苗時期に平年を大きく上回る高温になることが多くなり、出芽不良、苗ヤケの障害が多発しています。高温になった場合に育苗ハウスの換気で温度を下げるのが基本ですが、換気だけでは温度を下げられない日射が強い日もあり、被覆資材を見直す必要があります。

【おすすめの高温対策被覆資材】

無加温育苗にシルバー＋不織布または発泡シートが従来から用いられてきましたが、図に示したとおり晴れた日にはハウス内は50℃前後になり、苗ヤケの障害が危ぶまれます。

それに対して、アルミ蒸着シート（本州太陽®シート）は高い反射、遮熱性能と夜間の保温効果もあり温度を一定に保ちます。

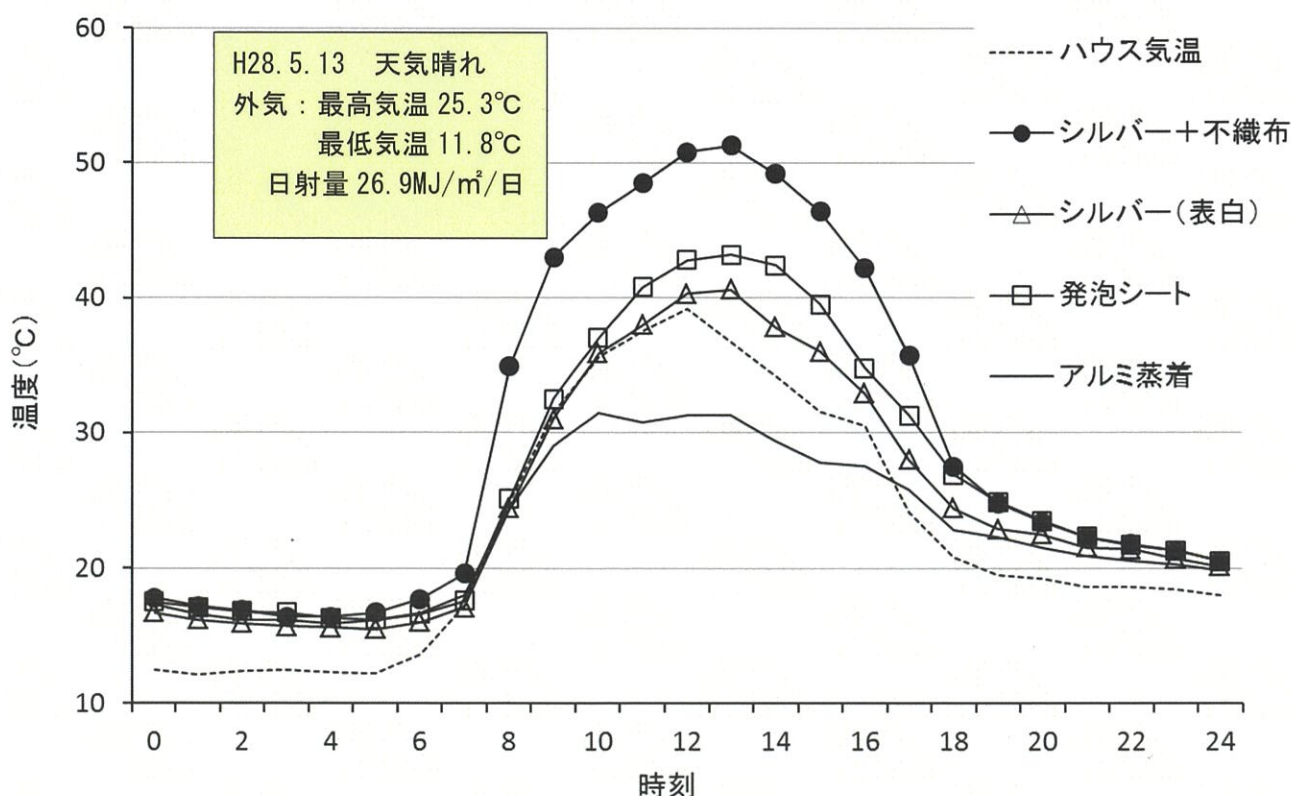


図 被覆資材下の温度（新潟県研究成果から）

【本州太陽®シートの使い方】

太陽シートを被覆します(ベタ掛け)。育苗箱に密着させてピンと張り、シートの端を押さえて下さい。

※黒色の防草シートやコンクリートの上に育苗箱を置く場合は、必ず通路も含め全面に太陽シートを被覆してください。

通常はハウス内を閉め切った状態で管理しますが、夏日(気温 25℃を超える日)や、ハウス内温度が 50℃を超える場合は、換気してください。

なお、本州太陽®シートは濡れたまま保管するとアルミ蒸着層が水分と反応して、薄くはがれやすくなりますので、必ず乾かして暗所で保管してください。



写真 本州太陽®シートをベタ掛け

YouTube で使い方の動画を配信中です。 <https://youtu.be/y3ugYudTnMo>



(担い手・営農支援部 担い手・営農支援課)